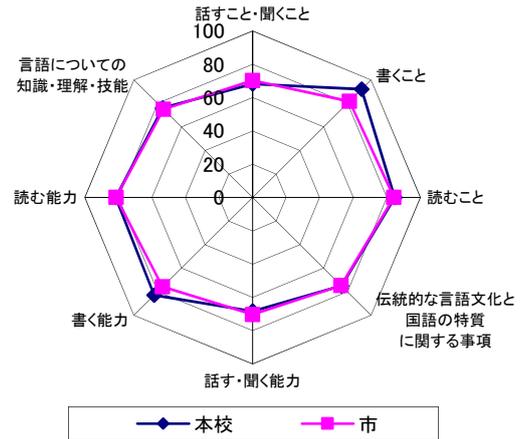


宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	68.3	70.3	68.2
	書くこと	92.0	81.7	80.6
	読むこと	84.8	84.3	84.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.0	74.7	72.7
観点別	話す・聞く能力	68.3	70.3	68.2
	書く能力	83.0	76.0	74.1
	読む能力	81.5	81.3	81.1
	言語についての知識・理解・技能	75.9	74.9	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

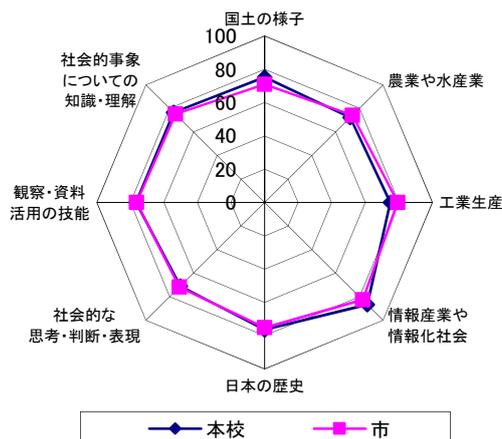
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●話すこと・聞くことについて平均正答率は市の平均を2.0ポイント下回っていた。	・今後は、話をよく聞きながらメモをしっかりと取り、大切なことを聞き逃さないように助言するなど、聞き取り問題の指導の充実を図る。 ・学習の中で「話す・聞く」力を育てる現在の指導を継続し、学級活動や委員会活動・行事に取り組む際の話合い活動において、計画的に話し合いを進める実践力を育てていく。
書くこと	○書くことについての平均正答率は、市の正答率を10ポイント以上上回り、きわめて良好な成績であった。	・今後も、朝の学習や宿題等を利用し、普段から書く学習活動を繰り返すことにより、書くことへの抵抗を減らしていきたい。 ・字数制限がある問題にも逃げずに取り組んだり、時間を決めて取り組ませたりして、作文力を高めていきたい。
読むこと	○平均正答率は、市の平均をやや上回っていた。	・大切なところに線を引きながら読ませるように指導する。 ・朝の読書の時間や図書に触れる時間を確保し、本に親しむ機会を設けていく。 ・説明文では、段落総合の関係を捉え、筆者の主張を読み取る力を育てる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は、市の平均をやや上回っていた。ものの、既習の漢字を正しく読んだり書いたりする力は十分身に付いているとは言えない。 ●特に、第4学年配当漢字を正しく読むことができていなかった。	・漢字については、家庭でも繰り返し練習をするよう宿題の出し方を工夫し、ミニテスト等を活用して振り返らせながら指導をする。 ・前学年だけでなく、前々学年の配当漢字についても学期に一度程度振り返るテストを行うようにする。

宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	75.3	71.0	69.4
	農業や水産業	72.3	74.0	69.0
	工業生産	75.0	79.4	75.4
	情報産業や情報化社会	86.7	82.8	88.7
	日本の歴史	76.4	75.2	72.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	70.9	71.9	67.2
	観察・資料活用の技能	76.6	76.3	70.7
	社会的現象についての知識・理解	76.6	75.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

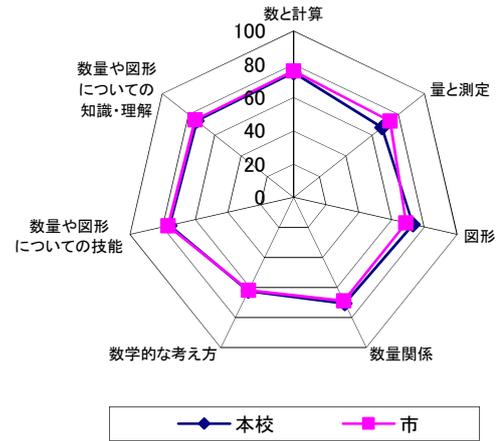
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は、市の平均を4.3ポイント上回っていた。 ○日本周辺の海洋名、国名、日本の地形の概要がきちんと知識として身に付いている児童が多かった。 ●公害から生活環境を改善する方法について考える問題についての正答率は低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地図帳を使った学習などを取り入れながら国土に対する関心を高める。また、家庭でも話題となっている社会現象について関心をもってテレビなどの情報を見るように促す。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均を1.7ポイント下回っていた。 ●日本が食糧生産において抱える問題について、資料を読み取ってこたえる問題の正答率は低かった。	・資料の読み取りを基に、理由を考えたり自分なりに表現したりする時間を授業の中で意図的に取り入れていく。
工業生産	平均正答率は、市の平均を4.4ポイント下回っていた。 ●工業製品を、工業の種類別に分類・整理する問題の正答率は市の平均より約9ポイント低かった。	・資料を基に思考・判断し、文章で表現する学習を、他教科の時間にも意識して指導していく。
情報産業や情報化社会	平均正答率は、市の平均を3.9ポイント上回っていた。 ○テレビやラジオ、新聞などの情報手段についてよく理解できていた。	・今後も身の回りの情報について意識させながら指導をしていく。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均を1.2ポイント上回っていた。 ○大和朝廷による国土統一や、江戸幕府の大名配置についてよく理解できている。 ●江戸幕府による政治の安定について、鎖国を主軸に資料を読み取って答える問題の正答率は市の平均より13ポイント下回った。	・それぞれの時代の主要な出来事を押え、資料から読み取ったことを分析し、表現する活動を取り入れ、内容の定着を図る。

宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	75.0	76.1	73.5
	量と測定	67.4	73.6	70.1
	図形	73.0	68.8	66.6
	数量関係	70.6	68.9	64.5
観点別	数学的な考え方	62.3	61.8	54.9
	数量や図形についての技能	75.8	76.7	73.2
	数量や図形についての知識・理解	73.9	75.0	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

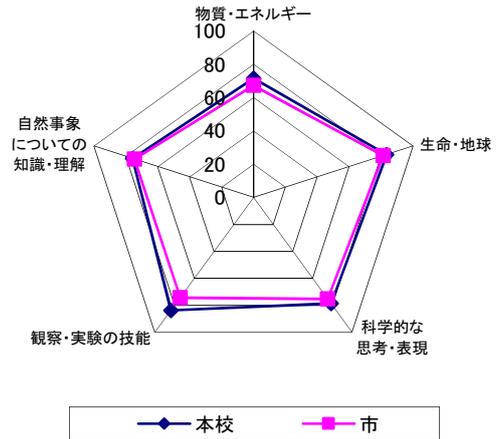
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均を1.1ポイント下回っていた。</p> <p>●分数の割り算の正答率が市の平均より7ポイント低かった。</p> <p>●問題文から、答えが整数であることを読み取って正しい答えを求める問題の正答率が市の平均より10ポイント低かった。</p>	<p>・計算問題などは、今後も継続して反復練習を積み重ねていく。また、少人数指導、家庭学習での指導を継続し、定着を図る。</p> <p>・理由を説明する問題に苦手意識をもたせないために、普段から活用問題の類題を解かせるようにする。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、市の平均を6.2ポイント下回っていた。</p> <p>●平行四辺形の面積を求める際、高さにあたる部分を正しく見つけられない児童が多かった。</p> <p>●時速を求める式を正しく選ぶ問題の正答率が市の平均より6ポイント低かった。</p>	<p>・面積や体積、単位量当たりの大きさ、速さについては、公式を忘れてしまう児童が多いので、繰り返し復習させ定着させる。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均を4.2ポイント上回っていた。</p> <p>○合同な三角形の作図問題の正答率が97%で、ほとんどの児童が正しく作図できた。</p>	<p>・作図問題にも継続的に取り組ませる。コンパスや分度器の使い方についても指導する。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、市の平均を1.7ポイント上回っていた。</p> <p>○円グラフから割合を読み取り、比較量を求める問題の正答率は市の平均を10ポイント上回った。割合の問題対策を十分に行った成果であると考えられる。</p> <p>●反比例の表の読み取り問題の正答率は市の平均を6ポイント下回った。</p>	<p>・反比例の問題についてももう一度よく復習し、表に当てはまる数を適切に求められるよう練習させる。</p>

宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	71.6	67.3	64.4
	生命・地球	83.4	81.3	80.3
観点別	科学的な思考・表現	78.7	75.3	72.6
	観察・実験の技能	83.8	74.4	73.5
	自然事象についての知識・理解	75.9	74.7	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均を4.3ポイント上回っていた。</p> <p>○ふりこのきまりや、「ろ過」についての知識などがしっかりと身に付き、市の平均を大きく上回っていた。</p> <p>●空気中の物質の組成や、塩酸の性質についての正答率が市の平均をやや下回った。</p>	<p>・体験的に理解を深める指導を心がける。</p> <p>・実験にあったっては、予想を立て、結果から考察するという学習の仕方を定着させ、科学的な思考力を養っていく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均を2.1ポイント上回っていた。</p> <p>○ふりこのきまりや、「ろ過」についての知識などがしっかりと身に付き、市の平均を大きく上回っていた。</p> <p>○「人のたんじょう」の問題はすべて市の平均正答率を大きく上回っていた。復習プリントに繰り返し取り組ませた成果であると考えられる。</p> <p>●月の見え方から位置関係を考える問題は市の平均を5ポイント下回った。</p>	<p>・月の見え方などは実際に月を見ながら話題にするなど、日常生活と関連させながら、興味・関心を高めていく。</p> <p>・映像資料などを活用して、視覚的にも理解できるようにする。</p>

宇都宮市立西が岡小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自主的に学習に取り組む態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で「自主学習の手引き」を作成し、全児童に配付する。 12月の学習チャレンジ週間を「自主学習強化週間」と位置付けて実施し、各学級で「自主学習ノート賞」を獲得したノートを保護者に紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主学習に取り組むことができるようになったか、「家で予習・復習をしている」「家で宿題の他に自分で考えた勉強をしている」の質問項目を含めた再調査を2月に行った結果、数字上はあまり変化が見られなかったが、優れた取り組みをした児童のノートを掲示することにより、自主学習の内容に向上が見られた。
国語化を中心とし、自分の言葉で文章にまとめる指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の学校課題「みんなが、楽しく、わかる、できる授業づくり～インクルーシブ教育の視点を取り入れた国語科授業の展開～」に基づき校内研修を行い、「書くこと」の指導事項である構成や記述に焦点を当て、指導方法を工夫する。 各教科の授業の中で、自分の考えを書く活動の時間を確保し、意図的に位置づける。 	<ul style="list-style-type: none"> 12月の学習チャレンジ週間に「書く」問題を解かせ、正答率を確認した結果、ほとんどの児童が条件に合うように決められた時数で書くことができるようになった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・次年度も、今年度の学校課題「みんなが、楽しく、わかる、できる授業づくり～インクルーシブ教育の視点を取り入れた国語科授業の展開～」を継続して研究していく。今年度成果のあった「書くこと」の指導事項である構成や記述に焦点を当てた指導方法の工夫する。

また、朝の学習の時間を活用した「前学年の漢字の復習プリント」や、「縦割り班の音読」を継続させることで、国語に親しみ、漢字や音読の能力を高められるようにする。

